

令和4年度秦野市健康増進計画検討委員会 議事要旨

日時：令和4年10月20日（木）午後1時30分～午後3時

場所：秦野市役所教育庁舎3階BC会議室

出欠状況：参加者 出席者9名 事務局 7名

■ 令和4年度秦野市健康増進計画検討委員会 出席者名簿

番号	区分	所属	氏名	出欠
1	学識	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部看護学科 教授	斎藤 照代	出席
2		東海大学 体育学部生涯スポーツ学科 講師	松下 宗洋	出席
3		一般社団法人秦野伊勢原医師会会長	関野 高弘	出席
4		一般社団法人秦野伊勢原歯科医師会会長	井上 泰	出席
5		NPO法人秦野市薬剤師会会長	大島 正	出席
6	行政	神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター 保健福祉課長	石川 奈穂	出席
7	地域	秦野市食生活改善推進団体 副会長	小澤 美代	出席
8		秦野市民生委員児童委員協議会 児童部会長	小澤 みつ江	出席
9	市民	一般公募による市民	黒澤 聡	出席

事務局

1	こども健康部参事(兼)健康づくり課長	和田 安弘	出席
2	こども健康部健康づくり課専任技幹(兼)課長代理(健康づくり担当)	渋谷 ちづる	出席
3	こども健康部健康づくり課健康づくり担当 技幹	大澤 由香	出席
4	こども健康部健康づくり課健康づくり担当 技幹	飯塚 由紀子	出席
5	こども健康部健康づくり課健康づくり担当 栄養士	石川 千聖	出席
6	こども健康部こども家庭支援課親子支援担当 技幹	大場 葉留美	出席
6	福祉部高齢介護課 高齢者支援担当 主査	高芝 美保	出席

■ 会議次第：

- 1 開会
- 2 委嘱状交付（机上交付）
- 3 あいさつ
- 4 正・副委員長選出
- 5 正・副委員長あいさつ
- 6 議事
 - (1) 第4期計画における令和3年度の実施状況及び評価について
 - (2) その他
- 7 閉会

■事前送付資料：

- 秦野市健康増進計画（健康はだの21）第4期計画 体系図 (資料1)
進行管理シート (資料2)
健康増進計画の推進に関する検討委員会評価票 (資料3)

■当日配布資料：

- 出席者名簿
地域での健康はだの21 推進活動の取組(令和3年度) (参考)

■要旨：

事務局： 机上の委嘱状について、名前などご確認ください。

本日の委員会は、委員全員の出席をいただいておりますので、秦野市健康増進計画検討委員会規則第5条第2項の規定により会議が成立していることをご報告します。

それでは、只今から、令和4年度 秦野市健康増進計画検討委員会を開催します。

開会に当たり、和田健康づくり課長から、ごあいさつ申し上げます。

- 健康づくり課長あいさつ —
— 配布資料及び事前送付資料の確認 —

事務局： 委員長及び副委員長の選出について、秦野市健康増進計画検討委員会規則第4条の規定では、委員の互選により定めることとなっておりますが、指名推薦とさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

《異議なし》

事務局： それでは、指名推薦とさせていただきます。

本委員会では、健康はだの21（第4期計画）の推進状況（評価）について、ご審議いただきますが、今任期は、次期計画の策定についてのご意見をいただくこととなります。

そこで、委員長には、公衆衛生学を専門とされ、東京都の健康推進プランや、近隣では平塚市の自殺対策会議委員、横浜市の健康経営認証委員会委員を務められるなど、豊富なご経験のある「国際医療福祉大学 斎藤委員」を、また、副委員長には、保健所機能としての広域的な視点から地域の状況を把握されている「平塚保健福祉事務所秦野センター 石川委員」を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。

《異議なし》

事務局： 委員長は、斎藤委員、副委員長は、石川委員にお願いします。

(委員長席へ移動、着席)

- 委員長あいさつ —
— 副委員長あいさつ —

4 議事

<p>事務局 (課長代理)</p>	<p>秦野市健康増進計画検討委員会規則第5条の規定により、会議の進行を斎藤委員長にお願いします。</p>
<p>斎藤委員長</p>	<p>それでは、会議次第に沿って、議事に入ります。 議事1の「令和3年度実施状況及び評価について」、事務局から、進行管理シート等資料の説明がありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>《資料1 体系図について》 資料1の「体系図」は、計画の構成を表わしています。一番左側の「総合目標」である「健康寿命の延伸・壮年期死亡の減少、生活の質の向上」に向け、3つの「基本の方向性」があり、9つの取組分野があります。 取組分野ごとに「重点目標」「基本施策」「担当課の主な取組み」がつながり、右端に評価指標を示しています。 《資料2 評価シートについて》 評価シートは、9つの取組分野ごとに分かれて、9枚あります。 一番上の、「評価指標」は、取組分野全体の推進状況に関する指標です。 担当課がそれぞれに、事業評価をしています。感染症の影響で、予定していた事業ができなかった場合も、その他の代替え事業や工夫して実施した成果なども鑑みて、評価をつけています。 担当課評価等も参考に、委員の皆様から、取組分野全体の評価と、今後の効果的な推進に向けた、ご意見を頂戴したいと思います。 《参考資料「地域での健康はだの21推進活動の取組」について》 こちらは、今年度対面で実施をした健康増進計画事業推進協議会において報告をいただいた、市民活動団体の令和3年度の取組状況のとりまとめです。事業の中止等で思うような活動はできなかった団体もありましたが、感染症対策を講じ、実施方法等を工夫しながら活動が継続できています。</p>
<p>斎藤委員長</p>	<p>それでは、評価に進んでいきます。 「進行管理シート」をもとに、担当課評価を確認しながら、この委員会としての意見をまとめていきます。取組分野ごとに、A～C（A：推進できた/B：おおむね推進できた/C：推進できなかった）で、評価をつけていきます。主に皆様からのご意見をうかがう形で進めたいと思います。 まず、基本の方向性I「健康を支援するコミュニティの実現」取組分野1「社会的つながり」についてです。 事務局から、補足説明がありましたら、お願いします。</p>
<p>【基本の方向性I「健康を支援するコミュニティの実現」】</p>	
<p>《I-1 社会的つながり》</p>	
<p>事務局</p>	<p>・全体の評価指標については、計画策定時が「健康状況アンケート調査」「日常生活圏域調査」からの実績であり、今回、実績値は出ていませんが、参考として、「健康に気を付けている人」の割合（20歳～64歳）は、市民健康診査や特定健康</p>

	<p>診査を受けた該当者では、91.2%という結果でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本分野では、健康意識を高める情報発信や各種講座の開催、ボランティアとの協働で健康づくりの取組を実施しています。感染症の影響で、イベントの中止により普及啓発ができなかった事業もありました。 ・（1番上）新たに、「民間設置」として、県の認証を受けた未病センターを2か所で立ち上げ、未病に関する相談会を実施しました。 ・高齢者向け出前講座では、少しずつ活動を再開する団体が増えたため、団体への出前回数が昨年度より増加しています。 ・（裏面）協働で健康づくりを推進する各ボランティアの養成は、健康推進員、食生活改善推進員、介護予防普及員は、感染対策及び内容を工夫して養成講座を開催。さわやか体操の普及員養成は、次年度に延期しましたが、現任研修会にて活動を支援しています。 ・ゲートキーパー養成講座は、一部、オンライン開催を取り入れ、認知症サポーター養成講座は、地域の高齢者支援センターとの連携実施により、累計人数が増加しています。 ・（1番下）「さわやか体操で介護予防」について、地域で「さわやか体操ゆっくりVer.」のプログラムを実施している団体が、年度末には、ほぼ活動状況が戻り、新規の団体も増えています。 <p>そのほか、事業の取組内容及び担当課評価は資料のとおりです</p>
斎藤委員長	<p>事務局の補足説明は終わりました。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、少しずつ活動が増えたようです。担当課も工夫をして推進してきたと思いますが、委員の皆様の方から、ご質問やご意見はありませんか。</p>
黒澤委員	<p>評価としては『A』でいいと思います。コロナ禍での若者に向けたQRコードやICTを活用した取組は、効果が数値に表れています。世の中の動きに合わせて良いと思います。今後もコロナの影響で、対面でできないこともあると思いますので、ハイブリット式で続けてもらいたいと思います。</p>
斉藤委員長	<p>コロナ禍の状況で、ICTを活用した取組が若い世代に効果をあげたという、ご意見をいただきました。</p> <p>その他、いかがでしょうか。</p>
石川委員	<p>認知症の取組は実績をあげていますし、ほとんどの事業が、コロナが始まった令和2年度に比べると、現状維持もしくは回復傾向にあるため、全体的には『A』で良いと思います。</p>
斉藤委員長	<p>ご意見をいただきましたように、工夫して、対面でも事業を実施したことも高く評価できると思います。また、未病センターを2か所も増やしているなどの努力が『A』評価に値するという事だと思います。</p>
小澤みつ江委員	<p>この分野で、効果があった取組としては、「地域で」「少人数で」開催したこと、成果があったことと、インターネットを介して、新しく方法を変えてやったこと</p>

	<p>とが、前年度よりも成果が上がっていると思います。</p> <p>評価は『A』で良いと思いました。</p>
斎藤委員長	<p>それでは、全体の評価に移りますが、『A』評価ということで良いでしょうか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>意見としては、ICTの活用により効果をあげたことと、前年度に比べて様々な工夫をしながら取組を行い、推進したことが評価できると思います。</p>
<p>【基本の方向性Ⅱ「健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり」】</p>	
斎藤委員長	<p>続いて、基本の方向性Ⅱ「健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり」です。こちらは、取組分野が6つ、「栄養・食生活」「身体活動」「こころの健康」「喫煙」「歯・口腔」「感染症」で、健康増進に深く関わっている分野になると思います。</p> <p>6つの分野がありますので、順番に審議していきます。</p> <p>1つ目、「栄養・食生活」について、事務局から補足説明ありますか</p>
<p>《Ⅱ-1 栄養・食生活》</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の評価指標については、「主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合」「野菜を毎食食べる人の割合」のところでは、後期高齢者健康診査質問票を全国統一様式に変更したことにより、実績が出ていません。 ・昨年度に引き続き、各事業では調理実習を行わずに、媒体を活用した講義中心の講座で、予定どおりの回数が開催できました。 ・市公式ユーチューブを活用して、「離乳食」や「健康メニュー」等の料理動画の配信やHPへの簡単レシピの掲載等は、若い世代に向けた情報発信として積極的に取組みました。 ・「はだの食育通信」「食事リーフレット」等を発行し、自宅でのバランスの良い食事について情報提供を行いました。 ・高齢では、通いの場等へ専門職が出向き、低栄養予防の普及啓発や、健診結果から抽出したハイリスクの方へ個別支援を拡充しました。 <p>そのほか、各取組について内容及び担当課評価は、資料のとおりです。</p>
斎藤委員長	<p>事務局の補足説明を踏まえて、ご質問やご意見はございませんか。</p>
小澤美代委員	<p>評価は『A』をつけました。3歳6か月児の朝食欠食率が、前年に比べて増えてしまったのが残念ですが、それ以外は、公式YouTubeや出前講座の実施などで、若い世代から高齢者まで全体的に実績を上げていると思います。</p>
斎藤委員長	<p>『A』の評価で、こどもから高齢者まで、まんべんなく工夫して取り組んでいるという、ご意見でした。</p> <p>その他、ありますか。</p>
小澤みつ江委員	<p>コロナ禍で、失業とか、ひとり親とか、こどもの貧困に関する問題などが出現してきています。フードバンク等の活用も、この計画の栄養・食生活の取組の範疇にはないと思いますが、市として、その当たりをどう捉えているのかうかがいたいです。</p>

斎藤委員長	こどもの貧困は大事な問題だと思います。いろいろなところで「子ども食堂」等の取組が行われていますが、市としてどのような考えかという、ご質問になるかと思います。
こども家庭支援課	こどもの貧困に関しては、市全体で対策会議を行っている状況です。この健康増進計画の方では、母子保健という立場になりますので、この場で、なかなかお話できないところです。
小澤みつ江委員	市全体として、貧困と食生活・健康維持という関連をお伺いしたくてお聞きしました。この計画にも反映が必要なのではないかと思いました。
斎藤委員長	大事な問題として、市の対策会議で議論されているということですね。世の中でもいろいろな取組がされていますので、積極的に進めてもらいたいと思います。その他いかがでしょうか。
石川委員	『A』評価で良いと思います。調理実習を中止したことで男性の参加が増える等の成果に繋がっていますし、新たなスタイルの取組を進めていることが良いと思います。 事業の中止等でアンケートが実施できなかった部分は、どう評価していくのかは課題になると思います。 また、BMIの基準が変更されていると思いますので、次回の計画には反映されるかと思っています。
斎藤委員長	コロナ禍での工夫した取組で、逆に成果が増えたという意見、また、評価指標の基準も変わっているので、それに合わせた評価もしっかりしてほしいというご意見をいただきました。
斎藤委員長	それでは、食事・栄養の分野の評価について、こちらも『A』でよろしいでしょうか。《異議なし》 様々な取組の工夫、新たな発見が功を奏したという評価だと思います。
《Ⅱ-2 身体活動・運動》	
斎藤委員長	2つ目、「運動習慣の確立」についてです。 事務局から、補足説明ありますか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大きいイベントとしては、チャレンジデーは2年ぶりに開催しました。 ・東海大学、スポーツ課と協働でウォーキングガイドを作成・配布し、効果的なウォーキングについて普及啓発を行いました。 ・高齢者を対象とした一般介護予防事業についても、昨年度より参加者が増えています。 ・骨密度測定会は、乳がん検診時での同時開催や、未病相談会で拡充し、食事と合わせ適度な運動の必要性を啓発しました。 ・（裏面）地域での体操会は、公園などの身近な場所で、さわやかマスターが中心となり継続、また、令和元年度の秋から休止していた屋内の体操会についても、運営方法を見直して再開することができ、参加者が増えています。 <p>そのほか、各取組についての内容及び担当課評価は、資料のとおりです。</p>

斎藤委員長	<p>それでは、委員の皆様の方から、ご質問やご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。</p>
松下委員	<p>地域で集まって行う事業については、コロナの影響で難しかった中で、できることはやってきて、復活の兆しも見えてきたところだと思います。</p> <p>評価指標の「1時間の歩行と同等の活動している人」の増加については、今はどちらかというと、余暇の活動を増やす方向性になっていて、散歩する等のイメージになると思います。</p> <p>1日で1時間の歩行と同等ということ、実は大変で、通勤等の移動が大事になってきます。都市整備関係、公共交通機関と連携して、バスの利用促進等も推進していくと、より実績が上がると思います。</p>
斎藤委員長	<p>コロナ禍で運動も難しい状況と思いますが、ウォーキングガイドの作成は、素晴らしい取組だと思います。</p> <p>公共交通利用した通勤のご意見をいただきました。コロナ禍で、テレワークが普及したことで、それができないという声も労働現場から出ていますので、そのあたりは、ひと工夫、ふた工夫が必要になってくると思います。</p> <p>その他、ご意見ありますでしょうか。</p> <p>こどもについては、いかがでしょうか。</p>
小澤みつ江委員	<p>小学生などは、感染症がネックになっていて、学校単位や学年での取組の実施については無理があったと感じています。</p>
斎藤委員長	<p>ワクチン接種の遅れ等もあり、学校で感染が蔓延したという状況がありました。その中でも、前年度よりも実績が上がっていますので、厳しい環境の中、努力の成果だと思います。</p> <p>その他、ご意見いかがでしょうか。</p>
小澤みつ江委員	<p>一般介護予防事業では、ポールウォーキングやコグニサイズなど、公民館で行う事業が大分増えて、森林セラピーなどの新しい取組も実績が上がっています。</p> <p>担当課評価は「B」が多いですが、前年度よりも実績が上がっていることから『A』で良いと思います。</p>
斎藤委員長	<p>そうですね。公民館の事業は実績を増やしている、新たな取組も始めているという努力がわかります。</p>
関野委員	<p>健康維持増進のためには運動が有効ということですが、それに併せて、高齢者の介護予防を積極的に進めていただきたいと思います。</p>
斎藤委員長	<p>それでは、評価に移りたいと思います。先ほどのご意見もありましたが、コロナ禍でも実績数を増やしたこと、新しい視点での取組は評価に値すると思いますので、『A』でよろしいでしょうか。《異議なし》</p>
《Ⅱ-3 こころの健康・休養》	
斎藤委員長	<p>3つ目、「こころ」の分野にいきたいと思います。</p> <p>事務局から、補足説明ありますか。</p>
事務局	<p>・市内の中学校及び高校へ、動画配信案内や相談ダイヤル等の情報を掲載した</p>

	<p>「こころの体温計のQR付カード」を配布、若い世代への対策を強化しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナワクチン集団接種会場を利用した普及啓発の実施や、生活困窮者向けマーケットで「こころの体温計カード付きマスク」を配布しました。 ・こころの体温計のアクセス数は、10代の若い世代で、件数が顕著に増加しています。 ・乳幼児健診では、前年に比べ受診率は向上しています。1歳6か月児健康診査問診票にて「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる母親」の割合が下回っていますが、全健診で丁寧な個別問診を実施しました。 ・前年度は休止した介護者向けセミナーは、感染対策を行い実施しました。そのほか、各取組についての内容及び担当課評価は、資料のとおりです。
斎藤委員長	委員の皆様の方から、ご質問やご意見はありませんか。
石川委員	<p>『A』評価で良いと思います。若者、職域、妊産婦と全世代に対策を講じているところがとても評価できると思います。</p> <p>介護者支援のところ、高齢者、介護者向けに実施していますが、秦野市ではヤングケアラーの支援にも力を入れ始めているので、次回は項目に追加しても良いと思います。</p>
斎藤委員長	<p>こころの問題は、コロナ禍でクローズアップされてきて、自殺の統計等は、減っていたものが増えてきています。その結果から見ると、大事な対策になりますので確実に実施していて良いと思います。</p> <p>ご意見のように、全世代にアプローチしているところ、特に、ターゲットとなる年齢、具体的には、自殺が増えている20代、50代のところに、しっかりと手当てして良いと思います。</p> <p>「こころの体温計」を利用してみました、なかなか面白いですね。視覚的にわかりやすく、若者に良いと思いました。こうした世代に合った取組は効果的だと思います。</p> <p>職域に関しては難しいところかと思いますが、50代の自殺も増えているので地域職域連携をうまく活用して、アプローチしてほしいです。ヤングケアラーの取組もぜひ進めたいと思います。</p> <p>その他、ご意見ありますでしょうか。</p> <p>10代の自殺等も問題になっていますけれども、いかがでしょうか。</p>
小澤みつ江委員	今、自殺ほう助等も社会問題になっていて、こころを病んでいる人たちに目を付けた犯罪というのに、大変、心を痛めています、具体的に私たちには見えてこない、もどかしい思いをしています。
斎藤委員長	自殺を止めるのではなく手を貸すということに、どう社会が立ち向かっていくかについても、これから真剣に議論して、注意して考えていかなければならないと思います。ご意見ありがとうございました。
井上委員	こころの体温計ですが、中学生向けに配布されていますが、小学生の高学年に配っても良いと思います。

斎藤委員長	10代の自殺等も増えているところでのご意見だと思いますが、このあたりは、事務局いかがでしょうか。
健康づくり課	中学生は思春期で難しい年齢として、まず対応していますが、ご意見をいただきましたように、お子さんの成長も早くなっているのので、今後、学校教育と相談しながら、早めの対応を検討していきたいと思います。
斎藤委員長	早いうちから命の尊さや自分を大切にすることを学ぶ教育等も、自殺につながりにくい土台になると思いますので、学校教育と連携して進めてもらいたいと思います。
松下委員	こころの体温計の運用で、アクセス数が前年度に比べて倍増していることについて、キャンペーン等の普及啓発の効果だと思いますが、実際に困っている人が増えたという可能性もあると思います。困っている人の割合の変化等も見えますか。
健康づくり課	こころの体温計は、市外の人や誰もが、何回でも利用できるのですが、実際の人数や、何の困り感があるかがわからないところがあります。それよりも、困りごとがあれば、誰かに相談しましょうという促しになっています。
松下委員	気づくきっかけになればいいことですね。どういった方がいるのかというデータがわかればいいと思いました。
斎藤委員	これだけアクセス数が増えているのは、市民の皆さんに受け入れられているということだと思います。データをしっかり分析して、うまく施策に生かしていただきたいと思います。
斎藤委員	それでは、全体の評価に移りたいと思います。『A』でしょうか。『B』でしょうか。《『A』という声があがる》 『A』でよろしいでしょうか。 こころの体温計のアクセス数をはじめ、これだけの施策を充実してやってきた結果だと思います。《異議なし》
《Ⅱ-4 喫煙》	
斎藤委員長	続きまして、4つ目の「喫煙」の項目に移りたいと思います。 事務局、補足説明ありますか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の評価指標である市内小学校の喫煙防止教育については、前年は実施校数が1校でしたが、令和3年度は2校実施しました。 ・特定保健指導での喫煙者のうち、禁煙に関心がある人については、禁煙外来も紹介しています。 ・母子保健の方では、4か月児、1歳6か月児での非喫煙率が若干下がっていますが、問診時に喫煙状況を確認し、禁煙の重要性について普及啓発を行いました。 そのほか、各取組についての内容及び担当課評価は、資料のとおりです。
斎藤委員長	委員の皆様の方から、ご質問やご意見はございませんでしょうか。
大島委員	喫煙防止教育ですが、過去の実績を見ても、多い年で5校なので数的には少な

	<p>いと思います。取組を推進する部署の中に学校教育課が入っていないので、学校教育を巻き込んだほうが実績も上がると思います。また、学校保健委員会にも講師となり得る人がたくさんいるのではないかと思います。</p>
斎藤委員長	<p>私も学校現場とのタイアップが必要だと思います。教育指導要領の中に明確に記載されていて、やらざるを得ない部分ですので、うまくタイアップして進めていただきたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
健康づくり課	<p>この喫煙防止教育については、依頼があった学校に保健師が出向いていくという形で行っていて、体育館等の会場に児童を集めて行うため、コロナ禍では依頼が少なかった現状がありますが、今後、教育委員会の方とも連携をしながら実施できるように、進めていきたいと思っています。</p>
斎藤委員長	<p>コロナ禍において大変取り組みにくい事業ではありますが、実施方法を検討して進めていただきたいと思います。</p> <p>そのほか、ご意見ありますでしょうか。</p>
小澤みつ江委員	<p>以前は、薬物防止のキャラバンカーが各学校を巡回していたと思います。受動喫煙の害も含めて、子供たちに有益な情報を教えていたので、コロナが落ち着いたら、ぜひキャラバンカー等も利用して、学校教育にも対応していただきたいと思います。</p>
斎藤委員長	<p>そうですね。薬物依存も、依存という意味では、たばこも共通します。貴重なご意見をありがとうございます。ぜひ、参考にしてください。</p>
小澤美代委員	<p>普及啓発事業について、市民の日のイベントが中止になったため啓発ができなかったとありますが、それに代わるものが何か出来なかったのかと思います。大勢を対象にしたイベントは効果的ですが、少数であっても普及啓発が何かできたのではないのでしょうか。</p> <p>ここは、『A』評価はつけられないと感じがしますが、どうでしょうか。</p>
斎藤委員長	<p>そうですね。コロナ禍でいろいろな取組を工夫している中で、この問題は難しい側面があったかもしれません。苦労した痕跡を見受けられますが、コロナが落ち着いたらまたアイデアを出して、取り組んでもらいたいと思います。</p> <p>その中でも、指標の非喫煙者の割合等は前年度よりも実績値があがっています。男性の非喫煙率については、若干上がっています。</p>
大島委員	<p>秦野市では、「たばこ祭り」というものがあります。昔、秦野が葉タバコの産地で、経済を支えたということもあって、禁煙の推進が難しい部分もありますが、そこは英知を絞って進めてもらいたいと思います。</p>
斎藤委員長	<p>地域の実情や、コロナ禍で難しい部分もある中で、善処されたと思います。</p> <p>評価は『B』ということではいかがでしょうか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>非喫煙者の増加ということでは、実績を上げていますし、今後、一層の工夫と連携をして成果を出していただきたいと思います。</p>

〈Ⅱ-5 歯・口腔〉

齋藤委員長	5つ目、「歯と口腔」の分野です。 事務局、補足説明ありますか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の評価指標については、策定時の健康状況アンケート調査ですので、今回も実績値が出ていませんが、今年度、第5期計画に向けたアンケート調査を実施するため、策定時と同じ条件で実績値が確認できる予定です。 ・40. 50. 60. 70歳の節目に実施している歯周疾患検診については、受診者数が伸びなかったため、年度途中に、広報での周知やSNSの情報発信をしましたが、受診率は低下しました。 ・前年度は中止した「口腔がん検診」は、時期を鑑みて、定員を減らして開催しました。 ・介護予防では、通いの場へ出向き、口腔ケアの啓発を実施しました。また、低栄養のハイリスクの方へ口腔ケアも合わせて個別支援を行いました。 ・管理栄養士や歯科衛生士による訪問事業でも、口腔の観点から、要介護状態への移行を予防する支援を実施しています。 <p>そのほか、各取組について内容及び担当課評価は、資料のとおりです。</p>
齋藤委員長	委員の皆様の方から、ご質問やご意見はございませんか。
井上委員	<p>補助的清掃用具の使用について、秦野市では、昔に比べて増えてきていると思います。</p> <p>この中で、問題と思われるのが、歯周病健診の受診者が少ないことで、全国的に見ても、同じように伸び悩んでいます。ただ、妊産婦では、歯周病が早産のリスクを高めること等もテレビで放映されたことで、受診者も多くなっています。タバコを吸うことよりも歯周病の方が、早産の危険性が高いので、引き続き、啓発してもらいたいと思います。</p> <p>口腔がん検診では、定数を少なくして、コロナ禍でも実施したのは全国的にもめずらしいと思いますが、全体の評価としては、歯周病健診が低いので『B』だと思います。</p>
齋藤委員長	<p>丁寧な説明をありがとうございました。コロナ禍でも工夫して実施したことがわかりました。歯周病検診の受診者が少ないことについては、40代から70代の節目に行っているということですが、職域との連携により、うまく進められる事柄かと思いますので、その辺りも今後、ご検討いただきたいと思います。</p> <p>その他、ご質問やご意見などいかがでしょうか。</p>
小澤みつ江委員	<p>全体的に見ると、担当課評価では、こどもに関わるものが「おおむねA」で、高齢者に関するものが「BかC」になっています。</p> <p>例として、私事ですが、ここでやっと、定期健診を受けることになりました。歯磨きや歯間ブラシも使用していましたが歯周病に対する意識は低かったと思います。歯の不調から定期健診に繋がりました。高齢者においては、まだまだ、歯周病の周知が足りてないのではない</p>

	かと思えます。
斎藤委員長	その通りだと思います。こどもに関しては、3歳6か月児健診時の虫歯がない幼児の割合も、目標値に達しています。一方、高齢者へのアプローチが、年齢別の課題として明らかになりました。 今のご意見に対して、事務局いかがでしょうか。
高齢介護課	高齢者の歯に特化した事業として、個別にはなりますが、歯科衛生士が自宅に訪問して、お口の体操を行ったり、必要であれば受診を勧める等、しっかり食べられるよう支援している訪問事業があります。高齢者支援センターからの依頼に基づき訪問していますが、今後も連携していきたいと思っています。
斎藤委員長	歯は、全身の健康に影響しますし、認知症との関係もあって、とても大事だと思います。「8020」はうまくいっているのでしょうか。その辺りはいかがですか。
高齢介護課	以前に比べて、歯に対して意識が高まっていると感じています。 75歳以上の後期高齢者では、歯を抜いている方、義歯が合っていない方も多くいられます。若い世代では、ケアの仕方が知らない方も多い印象です。
斎藤委員長	「8020」は日本の医療政策の中で、成功した政策の1つであると言われていますが、秦野市では、いかがでしょうか。
健康づくり課	「8020」に関連して、市から推薦した人を、秦野センターがオーラルフレイル推進員として養成して、地域で普及活動をしていますので、それについて、石川委員から、推進状況等、ご発言をお願いします。NHKでも神奈川県の記事が報道されています。
石川委員	オーラルフレイル健口推進員は、保健所の歯科スタッフが中心となって、伊勢原市や秦野市から推薦された方を養成しています。口の周りを見せながらの普及なので、市の事業と同じように、コロナ禍で実施するのが難しい状況にあります。中でも、動画を使った普及を行っているところです。推進員は、リタイヤした方も多いため、自身から周りへ広げる活動をしてもらっています。
斎藤委員長	市民一人ひとりが広める立場でもあるということですね。 他に、ご意見はありますか。
井上委員	「8020」が、目標を達成してきている状況にありまして、その流れで、8020推進員からオーラルフレイル推進員に名前が変わっています。 歯と口の健康週間の事業でも、オーラルフレイル推進員が市民の前で、お口の体操等を行ったりと活動していましたが、コロナの影響でなかなか難しいのが現状です。
斎藤委員長	コロナが落ち着いたら、また多くの人にアピールする機会になるか

	<p>と思います。</p>
健康づくり課	<p>歯周病疾患検診の周知について追加です。令和3年度からは、他のがん検診や健康診査と一緒に、歯周疾患検診の受診票を送るように変更しました。また、秦野市の健診一覧にも歯周病検診の項目を設け、「歯周病チェックリスト」を載せる等、節目の年齢以外の方にも歯周病を意識してもらうように啓発しています。</p> <p>また、40歳以上の特定健康診査で保健指導となった方を対象に行う運動講座でも、「健口体操」の動画を使って、マスクをしたままで口の体操を取り入れています。口の健康が全身の健康という視点で取り組んでいるところです。</p>
斎藤委員長	<p>マスクをしたままというのは、正にコロナ禍に最適と思われれます。こうした様々な取組を工夫している中で、全体の評価ですが、『B』ということではいかがでしょうか。《意義なし》</p> <p>こどもの分野では大変良く取り組まれていて、中高年に対してもより一層努力を検討していただきたいと思います。</p>
<p>《Ⅱ-5 感染症》</p>	
斎藤委員長	<p>6つ目、「感染症」の分野について、事務局から補足説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止のため、感染者情報や予防に関することについて、HPをわかりやすく更新し、メール等でも随時、情報発信しました。 ・65歳以上の高齢者インフルエンザ予防接種は、昨年度に引き続き高水準を維持しています。 ・令和2年度から市内公民館等での除菌水の無償配布は継続しました。 <p>そのほか、各取組について内容及び担当課評価は、資料のとおりです。</p>
斎藤委員長	<p>委員の皆様の方から、ご質問やご意見はありませんか。</p>
関野委員	<p>高齢者のインフルエンザ予防接種については、接種率が50%でかなり高いことから、しっかりと周知できていると思います。肺炎球菌については、65歳になった方の接種率が40%という実績なので、同時に、今まで受けてなかった方で、受ける権利のある方の接種を進めてもらいたいと思います。</p>
斎藤委員長	<p>インフルエンザとコロナ、ダブルで流行が予測されている中で、とても重要な取組だと思います。予防接種の接種率については、良い数字が出ています。</p>
大島委員	<p>計画になかったところですが、コロナワクチンの接種率は、神奈川県で秦野市が上位にあると聞いています。その辺りも正しい知識の普及ができた成果だと思います。</p>
斎藤委員長	<p>評価指標を見ますと、情報提供についても100%達成できていますし、インフルエンザの予防接種率等も目標達成しているところは高く評価できると思います。しっかり取り組んでいるということで、『A』でよろしいでしょうか。</p> <p>《意義なし》</p>

【基本の方向性Ⅲ「生活習慣病の重症化予防」】	
斎藤委員長	最後に、Ⅲ「生活習慣病の重症化予防」に移ります。2つの取組分野「がん」と「生活習慣病」です。まず、「がん」について、事務局お願いします。
≪Ⅲ-1 がん≫	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「がん」については、新たに、市内の郵便局14か所の協力のもとに、申し込み書を配架して、申し込みできる機会を増やしました。 ・子宮がん、乳がん、大腸がん健診の受診率が「指標」となっていますが、実績値は、市が行っている検診の受診率を表す数値（職域での受診や人間ドックが含まない）です。参考に、同様の基準で出している神奈川県を受診率を「実施状況及び成果」の欄に掲載しています。 ・昨年度に比べ、子宮がん、乳がんの受診率は低下しましたが、大腸がんの受診率は上昇しています。 ・子宮頸がん、乳がんについては、無料クーポン利用率についてはわずかに上昇しています。 ・また、登録者数については、令和3年度から、年度の途中でも追加申請を可能に変更したことで、子宮がん、乳がんで顕著に上昇しました。 <p>そのほか、各取組について内容及び担当課評価は、資料のとおりです。</p>
斎藤委員長	委員の皆様からご意見いかがでしょうか。
関野委員	子宮頸がん検診の受診率が低いということですが、女性医師による検診の設定は、今後とも機会を増やしてほしいと思います。
斎藤委員長	受診率については目標に達していませんが、受診勧奨を増やしたところは注目したいと思います。コール・リコール（受診勧奨・再勧奨）は効果的だというエビデンスが出ていますので、引き続き、努力していただきたいと思います。
斎藤委員長	そのほか、ご意見ありますでしょうか。
斎藤委員長	<p>それでは、評価はいかがでしょうか。</p> <p>≪『B』という声があがる≫</p> <p>『B』というご意見がありました。いかがでしょうか</p> <p>≪異議なし≫</p> <p>それでは、『B』ということで、引き続き、受診勧奨を工夫して、受診率の向上につなげていただきたいと思います。</p>
≪Ⅲ-2 生活習慣病≫	
斎藤委員長	最後に、「生活習慣病」について、事務局から補足ありますか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の評価指標の特定健康診査受診率の実績は速報値としていますが、確定値を報告します。特定健診受診率の31.6%、特定保健指導は18.5%です。 ・主に重症化を防ぐことを重点に、特定健康診査の受診率向上と特定保健指導の充実を目指し、各種講座等を展開しました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診者を増やすため、未受診者へのハガキや電話による勧奨を行い、電話勧奨者の受診率は、昨年度に比べて高くなっています。 ・また、受診率向上の取組として「健康ポイントラリー」の応募者が274件、前年度実績から倍増し、参加後の「良い変化があった割合」も増加しました。 ・東海大学との協働による「健康バス事業」も予定どおりに実施できました。そのほか、各取組について内容及び担当課評価は、資料のとおりです。
斎藤委員長	委員の皆様の方から、ご質問やご意見はありませんが。
松下委員	健診未受診者の受診勧奨に関して実績値が増えています。生活習慣病予防のところでは、ポイントラリーの参加後に良い変化があった人の割合が増えていて、実際の生活習慣はわかりませんが、前向きに捉えていることは良い結果だと思います。
斎藤委員長	前向きに捉えているということは、好ましい健康行動に繋がっていくと思うので、増えているのは良いことだと思います。
小澤みつ江	<p>日常生活活動を増やすために、いろいろな講座を開催していますが、高齢者は気軽に、自分にもできそうなことを求めていると思います。民間のフィットネスの30分トレーニング等は、非常に流行っています。</p> <p>市でも、高齢者が筋力アップできる講座等を週1回くらいの割合で、設けてもらえればいいなと思いますが、その辺はいかがでしょうか。</p>
斎藤委員長	ご意見がありました。事務局いかがでしょうか。
高齢介護課	高齢介護課では、フィットネスとは違いますが、30分でできるプログラムを東海大学体育学部と協働で作成しています。「さわやか体操でフレイル予防」というプログラムですが、「健口体操」や「筋力アップ」「さわやか体操」を組み合わせたDVDが今年度に完成しました。このDVDを使って出前講座を実施したり、地域で、このプログラムを週1回、継続している団体が30団体ほどありますので、支援しているところです。身近で場所で体操を気軽にできる、このプログラムを進めていきたいと思っています。
斎藤委員長	<p>そうですね。地区組織活動とのタイアップで実施できればいいと思います。</p> <p>地域住民が集まって、自分たちでDVDを流して体操するということが、普及してく上では大事だと思います。引き続き、よろしくお願いします。</p>
斎藤委員長	かかりつけ医との連携した取組についての指標が、前年度より増えていて素晴らしいと思いますが、いかがでしょうか。
関野委員	<p>生活習慣病の指導ですが、なかなか改善が難しいと思います。</p> <p>糖尿病の重症化予防については、医師会も協力して行っているところです。力を入れていただきたいと思っています。</p>
斎藤委員長	<p>糖尿病の重症化予防は重要なテーマだと思います。進めていただくようお願いいたします。</p> <p>それでは、評価はいかがですか。『A』でしょうか。『B』でしょうか。</p> <p>コロナ禍であっても、前年度より、特定健康診査の受診率等が向上しているの</p>

	<p>は評価できると思います。</p> <p>《『B』という声上がる》</p> <p>『B』でよろしいでしょうか。《異議なし》</p> <p>評価は『B』とし、引き続き、様々な関係機関と連携して推進していただきたいと思います。</p>
斎藤委員長	<p>これで全ての項目の評価が終了しました。</p> <p>その他にご意見などはございますか。</p> <p>他になければ、今、皆様からいただいたご意見を、第4期計画の令和3年度における実施状況の評価としたいと思います。</p> <p>次に、次第の「その他」について、事務局からありますか。</p>
事務局	<p>今年度は、第5期計画の策定に向けた準備として、無作為抽出した7歳以上およそ約5,000人にアンケート調査を実施し、健康に関する意識、生活習慣、健康状況等の現状、健康課題を分析します。</p> <p>この調査をもとに、より地域の実情に沿った第5期計画の策定につなげていきたいと思いますので、委員の皆様におかれましては、今後、第5期計画の方向性や素案に対するご意見をいただきたいと思いますので、来年度の委員会の開催は3回を予定させていただきます。</p> <p>引き続き、どうぞ、よろしくお願いいたします。</p>
斎藤委員長	<p>このことについて、ご質問ありますか。</p> <p>《質問、異議なし》</p> <p>以上をもちまして、令和4年度秦野市健康増進計画検討委員会の議事は終了しました。進行を事務局へお返しします。</p>

5 閉会

事務局：長時間にわたり、ご審議いただき、ありがとうございました。本日、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、今後も第4期計画を着実に推進していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、本日のご意見をまとめたものを推進協議会の委員に報告していく予定です。

これをもちまして、令和4年度健康増進計画検討委員会を閉会します。ありがとうございました。

(閉会)